

の共有を図ってまいります。
両計画の策定にあたりましては、令和2年度には住民アンケート調査を実施し、町民のみならずのご意見等を伺っており、さらに今後は地区懇談会も実施しながら両計画の策定に向け、順次作業を進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

◆観光振興

観光業につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けている業種のひとつであり、当町におきましても同様の状況となっております。

今後におきましても不安を感じている事業者も多いのではないかと考えますが、町といたしましては、各種支援策を講じていくなかで、官民一体となつて、この苦境を乗り越えてまいりたいと考えております。

観光振興施策につきましては、今後も「紀宝町飛雪の滝キャンプ場」と道の駅「紀宝町ウミガメ公園」の両施設を核として、自然や文化、食など町の魅力を積極的に発信し、観光誘客を図り、その効果を町内に波及していくよう取り組みを進めてまいります。



高岡にあるお試し住宅

等の出展に努めております。

一人でも多くの方に、町に移住・定住を検討していただくため、町を体感していただくための「お試し住宅制度」や住環境の向上を目的とした「空き家バンク制度」、「空き家リノベーション支援事業」等にも取り組んでいるところであります。

令和3年度には、新たに県外から移住いただける方に引越し費用等の一部に補助を行う「紀宝町移住新生活支援金制度」を創設してまいります。住まい、仕事、結婚、子育て等の情報や町の魅力を発信し、移住を考えられている方が本町に興味を持っていただき、行ってみよう、暮らしてみようと思っただけで、施策の充実に努めてまいります。

飛雪の滝キャンプ場につきましては、平成30年4月のリニューアルオープンから令和2年度まで町が運営してまいりましたが、令和3年度からは指定管理者制度により「有限会社 楽らく」に管理・運営を移行させていただきます。

指定管理者には、地方自治法の趣旨に基づき、本施設の設置目的を効果的に達成できるよう、しっかりと取り組みを進めていただくなかで、民間事業者の活力を存分に発揮していただき、キャンプ場のみならず町全体の活性化に繋げていただけることを期待しております。

道の駅「紀宝町ウミガメ公園」につきましては、町の特産品の販売や情報コーナーを活用した情報発信等を通じて自然、文化、食の魅力を総合的に発信する施設として多くの観光客、地元住民のみならず立ち寄っていただいております。

ウミガメ公園におきましては、コロナ禍において利用者の皆様に少しでも安心して立ち寄っていただけるよう、消毒液の設置や時間短縮営業、施設の利用制限などを実施したほか、屋外に飲食スペースを新設するなど、新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じていただき誘客に努めてまいります。

う、暮らしてみようと思っただけで、施策の充実に努めてまいります。

◆防災関係

防災・減災対策につきましては、避難所における新型コロナウイルス感染症対策として、引き続き、災害時に必要とされる防災資機材及び非常食や日用品などの備蓄を進めるとともに、新たに設定された洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域のハザードマップの作成並びに更新を進めてまいります。

「人の命が一番」を基本に、災害における被災者ゼロを目指し、町民各々が、「自分の命は自分で守る」という防災意識の醸成を図るとともに、地域コミュニティの防災力強化を図れるよう、自助、共助による地区自主防災の活動や町民防災会議の運営について支援してまいります。

また、本年は、本町に甚大な被害をもたらした紀伊半島大水害から10年を迎える節目の年となります。当災害は、記録的な豪雨により、河川の氾濫や土砂崩れなどを多数発生させ、死者1名、行方不明者1名、1,000世帯あまりが床上浸水するなど、甚大な被害をもたらしました。この災害経験を風化させないためにも、町内全

努めていただいております。今後時代に合わせて様々な取り組みを講じていただき、さらなる集客に繋げていただきたく考えております。

また、本年2月には、地域おこし協力隊1名を新たに採用し、熊野川で地域特有の川舟「三反帆」による遊覧体験等を提供しております。「熊野川体感塾」を拠点として、観光にかかわる活動に従事していただいております。

世界遺産である熊野川は町の観光資源でもあり、歴史的価値を有する文化財でもありますので、観光誘客や熊野川流域の保全などを通して、景観・歴史・文化を後世に伝えていただく重



三反帆

域において避難訓練を実施してまいります。

台風等風水害に備えた地域版タイムラインにつきましては、町内で浅里地区をはじめとした8地域において策定しており、タイムライン運用に伴い、事前行動による避難者が増加傾向にあります。

未導入地域におきましても策定を推進し、引き続きタイムラインの充実を図ってまいります。また、地震津波タイムラインにつきましても、地区の方々と関係機関のご協力をいただきながら、運用を進めてまいります。

近い将来、南海トラフを震源とする巨大地震の発生が懸念されているなか、津波による甚大な被害が予想されます。熊野灘地域での救援・救護活動、緊急物資の輸送等を迅速に行うため、国土交通省におきまして復旧・復興に必要な道路啓開等を行う防災拠点といたしまして、道の駅「紀宝町ウミガメ公園」横の防風林を活用した整備を進めていただいております。

令和元年度には木の伐採および整地工



紀伊半島大水害（提供：紀南河川国道事務所）

要な役割を担っていただけることを期待しております。さらに、近年の近畿自動車道紀勢線の延伸に伴う、交通アクセスの向上により、大都市圏からの移動時間も短縮されております。

早期完成に向けて取り組みを進めております新宮紀宝道路も含め、今後も高速道路の延伸が期待されるところでありますので、これを契機に町内への誘客に繋げていけるよう、鋭意進めてまいります。

◆移住・定住

近年、新しいライフスタイルのひとつとして、地方への移住・定住を検討する都市住民が増加しております。

社会の成熟化などに伴い、働き方や生き方について国民の価値観が多様化したほか、情報通信技術の普及や発達によりテレワークが可能となつていることも要因のひとつと考えられます。

町におきましても、地域の活性化や人口減少問題の歯止めにも繋がる施策といたしまして移住・定住促進に努めており、都市部において町の豊かな自然環境や、受入環境等のPRを行うため、移住相談会への参加や地域おこしフェア

事が完了し、令和2年度から令和3年度では盛土や擁壁を整備する造成高確保工事等を実施し、順次整備を進めてまいります。町といたしましても、より安全・安心な道の駅となるよう、さらに同拠点内に貯水槽の整備や避難スペースを確保するべく取り組みを進めており、令和3年度におきましては、施設を整備するための地盤調査、設計、および給水配管の工事を実施してまいります。引き続き、防災拠点施設の早期完成に向けて、国との連携を